

小児科は心療内科？

院長

今月号の題名は意味不明で、すぐには理解できないかもしれません。小児科医は体だけでなく、心の病気にも対応しなければなりません。最近、心が関係する患者さんが続いたので、経緯と結果を紹介します。

まず、7歳の男の子、1ヶ月前から咳が出て呼吸が苦しいと訴えるようになり、近所の内科小児科で喘息と診断。治療を続けているが、治らないということで受診。診察室でもいつもの症状ということで、急に大きく呼吸をして咳が出てきました。しかし、診察所見は異常なく、苦しいようにはみえません。学校からの連絡はなく、寝ているときには見られない。目の前では回数が多く、待合室では少ないなどからチックと診断。チックとは自分の意志にかかわらず、突然の動作(運動チック)や発声(音声チック)をくり返すものです。内科小児科では喘息のフルコースの治療を受けていましたが、治らないのは当たり前です。飲み薬と吸入をすべて止め、母親に対応を話し、当人にも説明し帰宅しました。その後の経過は母親の安心もあり、ほとんどみられなくなりました。

次は、7歳の女の子、夜になると怖いと訴えることで受診。日中は全く問題なく元気で、もちろん診察でも異常はありません。症状がでたのは、軽い湿疹で皮膚科を受診した夜からでした。皮内反応でダニとホコリが陽性で、布団に多く生息していると。脅されたような気がした子は、布団に入ると怖くなって苦しくなったということです。本人に皮内反応と症状は関係ないこと、軽い症状であれば検査も必要ないこと、今まで大丈夫だから心配ないと伝えました。もちろん、その夜から安心して眠れるようになったことはいずれもありません。

次は大人バージョンです。嘔吐があり体調がすぐれないので内科受診、点滴。点滴中にさらに具合が悪くなり、過呼吸、息苦しさ、手足のしびれも出現。子どもがかかりついで、以前からお母さんが神経質と感じていました。訴えとして口から出る言葉は、すごく重症な病気を疑わせる症状ですが、訴えと症状の間には大きなギャップがあり、明らかに心理的・精神的な症状でした。気持ちを落ち着かせるため点滴、ゆっくり時間をかけて話を聞くことに。心配は“重い病気が隠

れているのでは、仕事先に迷惑をかけるのでは、子どもに悪影響を与えるのでは、夏休みに子どもと楽しめるのか...”。受診時には、こわばって苦悶さえ浮かべていた表情が、しだいに緩んで、帰る時には笑顔になりました。2週間後、体調が悪くてのぼせるという訴え



で再診。30～40分かけての話を聞いてあげただけで、すっきりした顔で帰宅。帰り際に先生と話すだけで、心が落ち着いて安心できる”と。アドバイスは“つまづく原因があると不安が大きくなるパニック障害。受診で安心するのは必要だけど、安定のためには専門家による投薬治療が必要。”2日後、悪夢から不安になり、手足のこわばり、冷や汗、心臓がぐるぐる振れる、悪夢と現実の区別がつかなくなったと再診。話を聞くだけで落ち着きましたが、心療内科受診を強くすすめました。つい先日“今は念願の北海道にいます。主人の実家でこんなにゆっくりできる私は幸せ者です。”との報告が。

最後のケースは育児不安のお母さんです。10ヶ月の赤ちゃんを抱えて一生懸命子育てをしています。しかし、離乳食を全く食べないと泣きそうな顔で相談に。赤ちゃんは体重・身長も平均以上で、バランスも全く問題なし。よく話を聞いてみると、“哺乳瓶でも飲まないし、離乳食も食べない。もし7～8回飲ませている母乳が止まったら、赤ちゃんは死んでしまう”との訴え。不安を全部吐き出せたところで、話を少し切り返しました。“保育園に預けた赤ちゃんが飢え死にすることはない。全く母乳が出ない母親の赤ちゃんでも、皆ミルクで育っている。赤ちゃんの発育からは母乳でしっかり栄養が取れている。しっかり栄養が採れていれば、食べる必要はない。”なかなか簡単には受け入れがたいようでしたが話を続けるうちに、いつの間にか涙は止まり、厳しい顔つきも緩んでくるようでした。続けて“生き物は生存本能が働き、お腹がすけば必ず食べる。もし3日も何も食べずに空腹になったら、コンビニのゴミ箱に捨ててある弁当の残りを食べるのが人間。今は母乳で栄養が足りているから、つまり食べる必要がないから食べないだけ。必ず食べるようになる」と信じて、これからゆっくりと離乳食を始めればよい。お母さんの余裕は、赤ちゃんの安心の源。そのうち食べればよいというぐらいの気持ちで接してあげて。”。入ってきた時とは別人のような笑顔で、帰ることができたようです。これで、赤ちゃんも食べてくれるでしょう。

大事なことはふたつ。皮膚科や内科の医師は、病気は診るけど子どもを見ていない。小児科は子どもを見ながら病気も診ていることの違いでしょう。もうひとつは母親の精神的肉体的健康が、子どもの健康にとって重要なこと。だから当院の開業理念は、『お母さんの不安・心配の解消』なのです。

8月のお知らせ

・休診のお知らせ

8月14日(水)～17日(土) 夏期休暇

8月30日(金)～31日(土) 休診

・栄養育児相談

8月28日(水) 13:30～

栄養士担当 参加無料



『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は11通のメールを頂きました。まずは青葉区の五丁さんから、生まれたばかりの赤ちゃんの相談です。「いつもお世話になっています。五丁まりんとかいとの母です。7月12日に3人目を出産しました。その子が昨日から鼻水と痰が絡んだような咳をしています。熱はなく、おっぱいもよく飲み、機嫌もいいです。上の子たちはこんなに早く風邪をひかなかったのでもちよと心配しています。生後11日の赤ちゃんでも風邪をひくのでしょうか？また、普通に待合室で順番待ちしてかわむらクリニックを受診してもいいのでしょうか？。さて赤ちゃんおかげをひくのでしょうか。」。次のように返事しました。「メールありがとうございます。赤ちゃん、お誕生おめでとうございます。さて、赤ちゃんも生まれた直後からかぜをひくこともあります。症状だけでは心配することはありませんが、発熱、おっぱいの飲みや機嫌に注意してください。鼻水や咳があっても、赤ちゃんへの悪影響がなければ、少し様子を見ていいでしょう。気になるようなら、連れてきてください。」。そして返事も「かわむら先生、返事ありがとうございます。先生にアドバイス頂いて安心しました。おっぱいを飲んでる新生児は免疫があるから風邪をひかないものだと思っていました。ちょっと様子を見てみます。お忙しいのにありがとうございました。」。



もうひとつは久しぶりに米国に赴任した渡辺さんからの近況報告。「ご無沙汰しております。渡辺彬仁の母、渡辺結城です。彬仁は元気しております。こちらでは徒歩通学のため、毎日私が送り迎えをしております。(自宅と学校が1.5マイル以上離れている子はバス通学になるのですが、その場合も必ずバス停まで親が送り迎えをします。)ですので、学校終了後毎日校庭で一時間以上遊んでから帰宅となります。真冬でも、真夏でもお構いなしです。真冬は-4℃の中で遊ばれ、待っている母の方が体の芯まで冷えてしまいました。今も30℃を軽く超える中で1時間は遊ばれます。こちらは6月2週目から夏休みですので、今はサマーキャンプに通っております。新学年は8月最終週からです。もう1か月以上夏休みを楽しんでいる子どもたちです。そして、まだ1か月近くお休みが残っています。体を十分に動かしているせい、年齢のせい、本当に丈夫になりました。私の心配性は相変わらずですが(笑)つい先日は日本では手足口病が大流行との報道がありました。今日はヘルパンギーナが大流行との記事を目にしました。夏は夏で先生はお休みになる暇もないのだなとしみじみ思っております。日本の夏は湿度が高いため、何もしてなくても疲労が増し体力が落ちて行くような気がします。お忙しいことと思いますが、くれぐれもお体ご自愛くださいませ。」。心配性のお母さんで赴任当初は、何度も相談を頂きました。実は相談よりも、近況報告の方が何倍もうれしいのです。つまり、一面記事ではありませんが、親子そろって元気な証拠です。そして、遠い米国から体調まで心配して頂くこと、本当にありがたいことです。

休診のご案内

- ・夏期休暇
8月14日(水)～17日(土)
 - ・臨時休診
8月30日(金)～31日(土)
- 日本外来小児科学会年次集会(福岡)参加
皆さんにはご迷惑を御掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

成人に対する風疹予防接種費用の全額助成開始

仙台市で、風疹ワクチンの全額助成が始まりました。
対象：接種時に仙台市在住で、(1)、(2)に該当
(1) 妊娠を希望、予定する19歳～49歳の女性
(2) 妊婦の夫(婚姻関係は問いません)
助成額：接種費用の全額(但し、上限10,000円)
MR(麻しん、風しん混合)ワクチン又は風しん単独ワクチン



助成対象期間：H25年4月1日～H26年3月31日
支払い：医療機関の窓口で接種費用を支払い、後日還付
ワクチンの不足が懸念されているため、当面はかかりつけ患者さんを優先します。詳細は、右上QRコードで仙台市HPへ

7月から水痘・おたふくワクチン公費助成開始

仙台市では、仙台小児科医会、仙台市医師会の要望により、上記ワクチンの公費助成が始まりました。
対象：1歳～3歳未満(誕生日前々日)
開始時期：平成25年7月
助成回数：各々1回分(追加としての接種も可能)
負担額：
水痘 4000円 おたふく 2500円
支払い：窓口で負担額分をお支払いください。
予防接種委託料分5230円が助成されています
詳細は、右上QRコードで仙台市HPへ

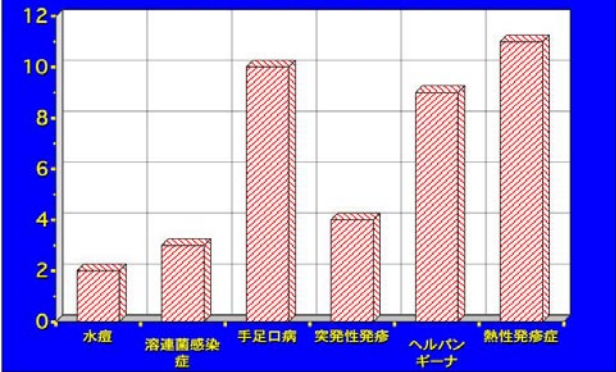


Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、420人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。
新しい情報発信としてTwitter、Blog「子どもクリニック四方山話」、Facebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください！
Mail Newsかなり戻ってきます。届かない場合はkodomoclinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



7月の感染症の集計



全国的には手足口病が大流行ですが、仙台市では大きな流行は有りません。夏カゼのヘルパンギーナが少し多くなりましたが、これから増加しそうな気配です。その他特別な感染症の流行もなく、全体的に患者さんも少なく落ち着いた状況です。

編集後記

たまたまですが、心理的・精神的問題を抱えた患者さんが目立ちました。患者さんが少なかったため、多くの時間を割くことができました。忙しい時期だったら、そうはいかないでしょう。混雑もしていないのに待たされる、そんな時は不安をつのらせている患者さんがいると理解してください。それにしても、一面記事の医療機関はひどいものです。悲しくなってしまう。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！